

令和7年度 事業計画書

公益財団法人 東京医科大学がん研究事業団

本事業団は、本事業団の目的とするがんの予防及び撲滅のため、必要な研究、調査、助成、研修、普及活動等を行い、もって国民の健康と福祉の増進を図るべく、次の事業を計画した。

1. がんの予防、治療及び撲滅のために必要な各種の研究・調査事業（定款第4条3号）

東京医科大学と共同で、がんの予防、治療及び撲滅に資するべく、以下の研究を実施する。（研究成果の概要は、過年度のものを含めて掲載可能なものから本事業団のホームページに隨時掲載する。）

(1) 予防、治療等に関する研究（収支予算書1号事業）

ア 肺がんの予防・早期発見に関する研究

- a . AI画像技術による肺結節の自動診断（継続）
- b . Liquid biopsy による肺がんの早期発見システムの開発（継続）
- c . 新世代CTと8Kモニター併用による呼吸器疾患の画像診断支援

イ 肺がんの治療に関する研究

a . 低侵襲治療法の開発

- ① VR・AR・MRを用いた低侵襲肺癌手術に関する臨床研究（継続）
- ② AI画像診断による低侵襲治療が適応の肺がん症例の選別
- ③ ロボット支援による肺がん手術の臨床研究（継続）

b . 肺がんの集学的治療に関する研究

- ① 免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子の研究（継続）
- ② 肺がんに対する免疫チェックポイント阻害剤の効果予測因子に関するAI病理解析（継続）
- ③ 高齢者の免疫チェックポイント阻害剤の適応に関する研究
- ④ 免疫チェックポイント阻害剤による肺がん周術期治療の有効性に関する研究
- ⑤ 分子標的治療薬を用いた肺がん周術期療法の有効性に関する研究
- ⑥ 免疫チェックポイント併用術前導入療法効果予測のための血清細胞外小胞再発マーカー及び胸部CT Radiomics解析

c . 肺がんの個別化医療の研究

- ① PET-CTを用いた肺がんの個別化治療法の探索（継続）
- ② ゲノム解析によるがんの質的評価と薬剤選択に関する研究（継続）

ウ 消化器がんの予防（一次、二次）に関する研究

- a . ピロリ菌除菌による胃がんの予防（継続）
- b . メトホルミンによる膵がんの予防（継続）
- c . インドメタシンによる大腸ポリープの予防（継続）
- d . ウルソデオキシコール酸の胆道癌発生の抑制に関する研究（継続）
- e . 潰瘍性大腸炎の抗炎症作用薬による発癌リスク抑制に関する研究（継続）
- f . ピロリ菌除菌後の胃がん再発チェックシステムの確立に関する研究（継続）

(2) がんの病態等に関する研究（収支予算書2号事業）

ア 肺がんの生物学的悪性度評価に関する研究

- a . 脈管浸潤陽性肺がんの術前予測のためのリキッドバイオプシーを用いた Radiogenomics研究
- b . AI画像診断による肺がん悪性度の治療前評価の研究（継続）

イ 消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、脾臓がん、胆道がん）に関する研究

- a. 潰瘍性大腸炎の発癌関連遺伝子に関する検討（継続）
- b. 脾がんのエクソソーム解析から見た発癌機構の研究（継続）
- c. メタボローム解析から見た胃がんの組織亜型と予後（継続）
- d. 肝細胞がんに対するナノナイフ治療の有用性の検討（継続）
- e. 消化器がんに伴う十二指腸狭窄に対する超音波内視鏡ガイド下胃空腸吻合術の長期予後に関する研究（継続）
- f. 慢性脾炎発癌リスクの疫学的研究（継続）
- g. 5年以上の長期間生存脾癌の臨床病理的特徴

2. がんの研究者に対する研究助成事業（定款第4条7号）（収支予算書4号事業）

本年10月にがん研究者に対する研究助成金の交付を実施するにあたり、本年7月に東京医科大学の学報およびホームページにおいて全国のがん研究者に対し募集を実施する。応募者の申請書類を本団の研究助成金審査委員会委員の評価を得た上で、同委員会にて授与者を決定する。本年度のがん研究助成金は総額で100万円を予算計上する。また、研究助成金審査委員会の審査結果は、速やかに本事業団のホームページに掲載する。（研究成果の概要は、過年度のものを含めて掲載可能なものから本事業団のホームページに隨時掲載する。）

3. がん検診事業及び健康診断事業等（定款第4条1号・2号・9号）（収支予算書5号事業）

(1) がん検診

肺がん検診、消化器がん検診（血清免疫学的研究を含む）を中心に、本事業団所在地等において集団検診等を実施する。自治体契約集団検診等として14,692名を予定（健康診断含む）。過疎地域、環境汚染地域及び公害発生地域などへの積極的な検診をフォローを含め行うべく、自治体を対象にしたがん検診の更なる推進を図る。

また、脾臓がんや肝臓がんの早期発見法の確立を目指した研究を平成28年度後期から東京医科大学と共同で着手しており、その成果を本事業にも反映させていく。

がん検診は、本事業団の柱となる公益目的事業である。

本事業団の公益目的事業比率を向上させ本事業団の存在意義をさらに高めるためにも、がん検診の利用者の増加を図る。具体的には、本事業団ががん検診を行っていること、本事業団のがん検診は脾臓がんや肝臓がんの早期発見もできるクオリティの高いものであることを本事業団ホームページ等でさらに積極的にアピールするとともに、がん検診の価格設定についてもホームページ等でわかりやすく公開することなどを検討の上、適宜実施する。

(2) 検診データバンクの構築

検診データバンク（平成17年度～）のさらなる構築を図るべく、引き続き各種検診データ及び画像資料等の蓄積、整理並びに保管方法等について具体的に検討を進め、これを実施する。

(3) 健康診断

収益事業として、がん検診受診者等（小中高大学の教職員健診を含む。）の希望に応じて健康診断を実施する。本事業団の永続的な発展のため、受診者数の増加など収益率の増加の方策につき検討し、隨時実施する。

4. 医師等に対する教育・研修事業（定款第4条4号）（収支予算書6号・7号事業）

(1) 一般教育・研修

肺がんに関して

以下の研修会等を東京都内の開業医、専門医に対して、東京医科大学と共に催して行う。

a. 学術講演会（年数回、東京医科大学病院・近隣・約60名）

b. がん診療連携としての講習会（年1回、東京医科大学病院主催）

消化器がんに関して

以下の研修会等を東京都内の開業医、専門医に対して、東京医科大学と共に催して行う。

a. 消化器がんの最新情報に関する講演会

（年数回、東京医科大学病院・近隣・約60名）

b. がん診療連携に関する講演会

（年数回、新宿区・中野区・杉並区診療所と共に催・約40名）

c. 東京医科大学大学院生に対する消化器がんの最新研究に対する講演会

（年6回、東京医科大学病院主催）

d. 東京メトロポリタン国際内視鏡ライブセミナー

（年1回、東京医科大学病院主催）

(2) がんの専門医養成のための教育・研修

包括的な知識を有する肺がんの専門医養成

広い視野を有する肺がんの専門医を養成するため、東京医科大学の研修医、大学院生、および東京都内のがん専門医、開業医を対象として、肺がん教育事業を行う。

a. 外部の施設より研究者を招聘しての講義を実施

（5月から12月にかけ2-3回・毎回約40名）

b. 若手呼吸器外科医を対象とした包括的手術シミュレーション法の確立

c. 拡張現実（AR）ゴーグルによる術者視点の共有と手術教育

d. 空間再現ディスプレーを用いた胸部悪性腫瘍に対する手術解剖の教育

5. がんに関する正しい知識を普及するための講演会等実施事業（定款第4条5号）

（収支予算書8号事業）

がんの予防等に関する講演会（公開講座）

一般市民を対象に、下記表の予定にて実施する。

（年間に4回・東京医科大学病院内・一般市民・約400名・無料）

（東京医科大学病院と共に催）

2025年（令和7年度） 市民公開講座 予定一覧

開催月日	科	講師	講演テーマ
4月18日（金）	消化器外科・小児外科	金沢 景繁 准教授 古賀 寛之 准教授	①肝癌治療の最前線 ②小児外科疾患について 日常疾患から高難度内視鏡手術まで (仮)
9月19日（金）	呼吸器・甲状腺外科	大平 達夫 教授	肺癌の診断治療に関する最新知見
10月17日（金）	産科・婦人科 乳腺科	小野 政徳 准教授 日馬 弘貴 助教	若年がん患者さんへの妊娠性温存療法 乳がんの生体と予防

6. がんに関する出版物の刊行事業（定款第4条6号）（収支予算書9号事業）

がんに関する出版物刊行につき、引き続き検討する。